

I 小笠北小学校の教育

1 学校経営方針

(1) 学校の使命

新たな課題が生まれ、変動する未来社会を生きていく子どもたちに、

- 自己解決力・協働連携力＝自ら判断・行動し、他と関わり合い、協働・連携し、物事に主体的に向き合う力
- 未来創造力＝未来を自分らしく生きる力、ねばり強くチャレンジする力、よりよい社会と幸福な人生を創り出していく力

を育てることと考える。

ア 新しい時代に必要となる資質・能力(新学習指導要領)

(ア) 「学びを人生や社会に生かそうとする」学びに向かう力・人間性の涵養

(イ) 「生きて働く」知識・技能の習得

(ウ) 「未知の状況にも対応できる」思考力・判断力・表現力等の育成

イ 静岡県の教育 ◇「有徳の人」の育成 ～誰一人取り残さない教育の実現～◇

(ア) 知性・感性・身体能力など、自らの個性に応じて「才」を磨き、自立を目指す人

(イ) 多様な生き方と価値観を認め、自他を大切にしながら「徳」を積む人

(ウ) 「才」を生かし「徳」を積み、社会や人のために貢献する「才徳兼備」の人

ウ 菊川市の教育(菊川市教育大綱)

(ア) 豊かな学びで歩み続ける人づくり(基本理念)

(イ) 「確かな学力、健やかな心身」の育成を目指した、知・徳・体のバランスのとれた教育の推進

a 小中一貫教育“学びの庭”構想の推進

b ICT環境等を生かした魅力ある授業づくり

c 思いやりに満ちた学校づくり

d 「一人ひとりが生きる教育」の推進

e ころごしを持った頼もしい教職員の育成

f 安全で安心して教育が受けられる環境づくり

(2) 「小笠北小学校ならではの」教育の継続と発展

ア 伝統

イ 多文化共生

ウ 授業における ICT 機器の効果的な活用

(3) 児童の実態

【2学期アンケートから 強肯定の割合】

○学校が楽しい 70.4% (肯定 93.2%)

○みんなで何かをするのは楽しい 80.1% (肯定 96.6%)

○信頼できる先生がいる 76.8%

◆授業に主体的に取り組んでいる 56.6%

◆授業がよくわかる 53.5%

◆話し合う活動で考えを深めたり、広げたりできている 55.8%

◆ICT機器を使い自分の考えをまとめたり発表したりした 30.8%

◆授業でICTを活用した(考えづくり・意見の交流) 42.2%

- ◆地域や社会のために何をすべきか考えることがある 49.7%
- ◆よりよい考えにするために比べて考えようとしている 50.5%

【表れから】

ア 本校児童のよさ

- 素直に受け止め、取り組もうとする
- 潜在的なエネルギーをもつ

イ 本校児童の課題

- ◆自ら目標をもち、自分で考え、進んで行動し、自分の成長を実感すること
- ◆自分の行動を判断・決定する際に相手の立場や思い、状況を考えることができること
- ◆授業や家庭学習など、学習へ向かう姿勢を身につけること

自己肯定感・自己有用感 他者意識 主体的な学習

(4) 学校目標

教育目標 「自信をもち 自分の力を発揮する」

重点目標 「自分をみがく子 ささえ合う仲間」

教育目標は岳洋学舎4校の共通の目標である。

岳洋学舎小中一貫教育カリキュラムで育成する資質・能力
主体性・人間関係形成能力・多面的多角的思考力

「みがく」=『自主・自律・向上心』

☆自分のよさや可能性を磨く人

物事を自分事と捉え取り組む人となるために「自分で考え、判断する子」

☆心、身体、学ぶ力を鍛える人となるために「ねばり強く取り組む子」

「ささえ合う」=「共生」

☆「よさを認め合い・高め合い、共に成長する仲間」

本校での子どもたちの頑張り、成長、優しさを「かがやき」と表している。輝くために自分を「みがく」。しかし、表面だけでなく芯から輝くために自分で自分を「きたえる」。

そのかがやきを周りの友だちにいかす。友だちのかがやきを自分にいかす。『かがやきパワー』によって更に自分を輝かせる。

学校生活の大半は授業。研究授業ではなく、日常の授業の中でどれだけ

①子ども主体の、子どもの思考の流れを意識した学習活動ができるか。

〈インプット30 アウトプット70の意識〉

②(教師だけが満足ではなく)子どもが満足する、脳みそが汗をかく授業ができるか。

③安心して学びに向かえる学習集団を組織できるか。

が大切である

(5) めざす学校と教職員の姿

ア 学校経営目標

「明日も来たい！」と子どもも職員も思える小笠北小学校

教職員の意欲、創造力、人間力が発揮され、学校力となり、学校教育目標と重点目標を達成する。

イ めぎす学校の姿・教職員の姿

- (ア) 思いやりの心と命を大切に作る温かい学校をつくる教職員
- (イ) 主体的・対話的・協働的な授業と活動で、子どもの学ぶ力を高める教職員
- (ウ) 子どもが安心して学習・生活できる環境づくりを推進する教職員
- (エ) 児童・保護者・地域に信頼される学校をつくる教職員
- (オ) 目標と情報を共有し、社会の要請・求められる動きに組織で対応する教職員



子どもも職員も

「明日も来たい」(わくわく感・ドキドキ感)

「この学級で、この学校で学ぶと楽しい、うれしい、いいことがある」(安心感・感動)

「授業が楽しい! 授業が好きだ!」

保護者や地域の方から

「安心して通わせることができる」

「学校と一緒に子どもを育てたい」「子ども(学校)のために、力を貸したい」

と思える学校

ウ 教職員の働く環境づくり

- (ア) 子どもと向き合う時間を大切にするための業務改善を図る
- (イ) 教職員のよさと力が発揮され、心身ともに健康で働くための勤務形態をつくる
- (ウ) コミュニケーションを活発にし、お互いに補完し合う協働体制をつくる
- (エ) 保護者、地域、関係機関と連携し、学校へのサポート体制を増やす
- (オ) 目標と情報を共有し、社会の要請・求められる動きに組織で対応する

生徒指導

- 自己存在感・自己有用感の実感
- 他者意識の育成(共感的人間関係の形成)
- 主体的な学びと行動(自己決定の場)
- ★学校が楽しい 強肯定 75% [R5:75%]
- ★学校に信頼できる先生がいる 強肯定 80% [R5:80%]



仲間づくり『みんなちがってみんないい』

○居場所づくり

みんなが気持ちよく生活できる場所を
自分たちでつくる【規律・自律】

○絆づくり

お互いの思いを大切に聴く
みんなの思いをつなぐ
声を掛け合い、やり遂げる

★みんなで何かをするのは楽しい
強肯定 85% [R5:85%]

学びづくり『子どもが主役・学ぶの楽しい』

○思考・拡大・深化

考えを大切に聴く 比較する 再考する

○ICTの効果的な活用

○学びに向かう力・人間性、基礎学力の定着
資質能力ベースの授業づくり
子どもが主人公の授業 30:70

★授業がよくわかる 強肯定 60% [R5:60%]
★授業に主体的に取り組んでいる
強肯定 65% [R5:65%]

※ [] 内の数値は令和5年度の目標値(強肯定)